

令和 5 年 5 月 30 日現在

機関番号：32601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K02554

研究課題名(和文) ポスト紛争とブレグジットの時代における北アイルランドの詩的想像力の諸相

研究課題名(英文) Research on the Aspects of Poetic Imagination in Northern Ireland in the age of the post-conflict and Brexit

研究代表者

佐藤 亨 (Sato, Toru)

青山学院大学・経営学部・教授

研究者番号：40245337

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：2017年からの5年間(実質は6年間)、一貫して、テーマである北アイルランドの現状(ポスト紛争、ブレグジット)について、現地調査を踏まえながら、とくに街頭のミューラルや詩作品を分析することで行ってきた。

この間、論文11本を書き、口頭発表を11回行い、単著1冊を出した。そのなかでも2021年に出した『北アイルランドを目撃する』(水声社)は科研テーマに即し、かつ、長年の現地調査を踏まえた大きな成果と言える。本研究期間の成果は、2022年から開始された新たな科研課題「ポスト紛争とポスト・ブレグジットの時代における北アイルランドの想像力の展開」(22K00406)の動機となり、土台となった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は大きく3つある。一つは現地調査を踏まえている点である。ほぼ毎年、ベルファストとデリーで、ミューラルの調査をしている。ミューラルは政治状況、社会状況に応じて変わるので、北アイルランドの変化と現在を映す鏡になる。二つ目は学際的である点である。つまり、文学作品ばかりでなくミューラルという街頭のメッセージを含め、詩的想像力のテキストとして扱い、分析する点である。

三つ目は、扱っている北アイルランドの問題が、他の紛争地域を考えるのに示唆を与える点である。つまり、宗派、民族や言語、帰属意識の違いなどに見られる二項対立的な社会の分析は、他の紛争地域を考える際の好例となる。

研究成果の概要(英文)：For five years since 2017, I have visited Northern Ireland almost every year to look at the situations at the age of post-Troubles and Brexit. My way of research is consistent; to analyze the two texts of Northern Ireland. They are poems by the poets living there, and murals with political themes painted by local artists. Especially the murals reflect the changes of the political and social surroundings, and I have documented and filed the changes through many pictures of murals I have taken in the divided cities of Belfast and Derry. In addition, I have often interviewed with local people there.

I have published 11 papers and read 11 papers and I have published one book titled Witnessing Northern Ireland in 2011. Including this book, which I think the most important achievement for 5 years, all the papers that I have written and read have led to the next research since 2022 of 'The Imaginative evolutions of Northern Ireland at the age of both post-Troubles and post-Brexit.'

研究分野：人文学

キーワード：アイルランド 英国 北アイルランド ブレグジット EU 紛争 ナショナリズム ユニオニズム

1. 研究開始当初の背景

詩作品ばかりではなく、ミューラルやグラフィティを含めた詩的想像力の諸相を理解する場合、北アイルランドの歴史的・社会的背景を知ることは必要であり、そのためには現地調査は欠かせない。私は1993年を皮切りに、ほぼ毎年、ベルファストやデリー（ロンドンデリー）の紛争地区を回り、その生々しい現実に触れ、書物を通して学んできた歴史の諸相を実感してきた。また訪問のたびに新たな課題と研究動機を得て、その成果を3冊の研究書として出版した。『異邦のふるさと『アイルランド』 国境を越えて』（2005年）、『北アイルランドとミューラル』（2011年）、『北アイルランドのインターフェイス』（2013年）である。出版年代から見てわかるように、それぞれが1990年代、2000年代、2010年代の北アイルランドの情勢を反映している。

現地調査のうち、2011年度は本務校から在外研究の機会を与えられ、ベルファストに1年間生活するという貴重な体験を得て、その間、詩の朗読会や文学イベントへの参加はもちろんのこと、ミューラルやグラフィティの調査を徹底的に行った。また、研究テーマとしてインターフェイス（多くは「ピース・ウォール」という壁である）と呼ばれる両宗派のコミュニティの境界線を新たに設定し、暴動などの衝突の現場だけではなく、住民同士の交流の現場も目にし、記録した。

2. 研究の目的

1960年代後半からの紛争で3,600余名の犠牲者をだした北アイルランド紛争は、1994年のIRAの停戦、1998年の「ベルファスト合意」を経て、着実に平和の道を歩んでいる。2007年には自治政府が復活し、2011年には二度目の選挙が行われた。街の様子も変わり、ベルファストの中心部には大きなショッピング・センターが二つもあり、休日にはにぎわいをみせ、いま、テロの脅威はない。しかし、一方で、二項対立的な社会は続き、住民は宗派別（プロテスタント系とカトリック系）に棲み分け、その境界（インターフェイス）にはピース・ウォールが立っている。しかも、その数は停戦前とくらべ、88面（2011年）と3倍以上に増え、境界をめぐる暴動は毎年起こっている。いっぽうで交流を目的とした催しも同時並行で行われている。北アイルランドは1998年以降、ポスト紛争の時代に入ったといえる。紆余曲折はありながらも、2007年に自治議会も復活し、社会も平穏を保っている。2011年の国勢調査では、これまで「英国人」と「アイルランド人」に二分されがちだった住民のナショナル・アイデンティティに変化が見られ、「北アイルランド人」を選んだ人が20パーセント以上を占めた。宗派対立は消えず、宗派ごとに棲み分けしている住民同士の溝はまだまだ深いが、これまでのように二項対立的に捉えられなくなったことも事実である。そして、これに英国のEU離脱の問題が加わり、北アイルランドのゆくえはますます不透明になってきた。

以上、ナショナリズム、民族、宗教、さらにはEUの問題など、現代社会が直面する諸問題の現在形を、北アイルランドで生まれる詩や詩的想像力に裏打ちされた作品をとおして考える。3. 研究の方法

北アイルランドにおけるポスト紛争の時代とブレグジットを控えた現在に関する研究は現地調査と北アイルランドの歴史、社会、文化についての文献調査などを通して行った。現地調査は地域としてはベルファストとデリーを中心に、テーマとしてはインターフェイスやミューラル、グラフィティを中心に行った。インターフェイスの状況、ミューラルのテーマなどは状況に応じて変わるので、現地調査は5年間、毎年、行う予定だったが、コロナ禍でかなわない年もあった。

対象とした主な地区は、ベルファストでは東部のショート・ストランド、西部のスプリングフィールド、南部のロウアー・オーモア、北部のアードインのアライアンス・アベニュー、ホワイトウェルとホワイト・シティ、タイガーズ・ベイ、ニューイントン、ニュー・ロッジ、デリーではボグサイド、フォイル川南岸地区などである。

また、ブレグジットに関しては、住民の生の声を聴く以外に、新聞の報道、現地の友人含め、研究協力者とはEメールなどで頻繁に連絡を取り、知識や情報を更新した。詩の研究は詩作品を作品の背景に重きを置いて読むのはもちろん、多くの先行研究があるので、それも合わせて読んだ。取り扱った詩人はマイケル・ロングリー、キアラン・カーソン、ポール・マルドゥーン、メーヴ・マガキアンなどである。

4．研究成果

研究期間中、論文 11 本を書き、口頭発表を 11 回行い、単著 1 冊を出した。そのうち、北アイルランドのプロテスタントについてのものが数篇ある。一つはサミュエル・ファーガソンという北アイルランド成立以前の 19 世紀後半に活躍したプロテスタントの詩人の二面性（アイルランドの文化的ナショナリズムを擁護しながら、アイルランドのネーションとしての独立には難色を示すという二面性）を論じたもの、ほかの二つは北アイルランド成立の際には圧倒的多数派であったプロテスタントが公民系運動以来、社会のなかでその勢力が衰退していく経緯を扱ったものである。また、直接北アイルランドを扱ってはいないが、日本の植民地支配と戦後の引き揚げを経験した詩人、作家（清岡卓行、三木卓、後藤明生）を論じた 3 篇もある。これは植民地とナショナリズムなど、アイルランド、および北アイルランドと共通するテーマを持っている。ほかに、アイルランドの歴史を通史的にとらえ、その特徴を挙げ、解説したもの、個別のアイルランド作家を扱ったものなのである。

数ある成果物のなか、2021 年に出した『北アイルランドを目撃する』（水声社）は科研テーマに即し、かつ、長年の現地調査を踏まえた大きな成果と言える。こうした成果のすべてが 2022 年から開始された新たな科研課題「ポスト紛争とポスト・ブレグジット の時代における北アイルランドの想像力の展開」（22K00406）の土台となった。

最後に、これは悔いても仕方ないことではあるが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で現地調査が思うようにできなかった。幸い、2022 年度以降新たな研究課題に取り組むことができ、また、2022 年度は現地調査もできた。今後とも現地調査を重ねながら研究を続けていきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 佐藤亨 | 4. 巻 66巻2号 |
| 2. 論文標題 「そこに宿る ジブシーの魂が」 ポーラ・ミーハンと出会う | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 現代詩手帖 | 6. 最初と最後の頁 82 - 87 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 佐藤亨 | 4. 巻 57巻別巻 |
| 2. 論文標題 植民地と故郷 清岡卓行、三木卓、後藤明生（後半2） | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 青山経営論集 | 6. 最初と最後の頁 45 - 60 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34321/22595 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 佐藤亨 | 4. 巻 40 |
| 2. 論文標題 アイルランドの光と影 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 名古屋港 | 6. 最初と最後の頁 41-46 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 佐藤亨 | 4. 巻 56 |
| 2. 論文標題 植民地と故郷 清岡卓行、三木卓、後藤明生（後半1） | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 青山経営論集（別冊） | 6. 最初と最後の頁 21- 31 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34321/22103 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|---|----------------------|
| 1. 著者名 佐藤亨 | 4. 巻 98 |
| 2. 論文標題 書評 エリザベス・ボウエン研究会編『エリザベス・ボウエン 20世紀の深部をとらえる文学』 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 英文学研究 | 6. 最初と最後の頁 71- 75 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 佐藤亨 | 4. 巻 55巻別冊 |
| 2. 論文標題 植民地と故郷 清岡卓行、三木卓、後藤明生(一) | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 青山経営論集 | 6. 最初と最後の頁 23 - 33 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34321/21679 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 佐藤亨 | 4. 巻 54 |
| 2. 論文標題 北アイルランドのプロテスタントの衰退(2) | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 青山経営論集 | 6. 最初と最後の頁 69-79 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34321/21225 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 佐藤亨 | 4. 巻 53巻別冊 |
| 2. 論文標題 北アイルランドのプロテスタントの衰退(1) | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 青山経営論集 | 6. 最初と最後の頁 41-49 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34321/20746 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 佐藤亨 | 4. 巻 52 (3) |
| 2. 論文標題 ベイガンをめぐって 周縁文化についての一考察 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 青山経営論集 | 6. 最初と最後の頁 122-134 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34321/20087 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 佐藤亨 | 4. 巻 28 |
| 2. 論文標題 ヨーロッパ人に成らん J・M・クツェーのT.S.エリオット論をとおして | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 『T.S. Eliot Review』 | 6. 最初と最後の頁 61-72 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計8件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件)

| |
|---|
| 1. 発表者名 佐藤亨 |
| 2. 発表標題 北アイルランドと殉教 (シンポジウム「アイルランドと殉教」) |
| 3. 学会等名 日本アイルランド協会第29回アイルランド研究年次大会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 佐藤亨 |
| 2. 発表標題 『荒地』と写真 (シンポジウム「彼岸と此岸をつなぐもの 『荒地』100周年目のテキスト・コンテキスト」) |
| 3. 学会等名 日本T.S.エリオット協会第34回大会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 佐藤亨 |
| 2. 発表標題 故郷と異郷を巡る比較文学、「植民と故郷 清岡卓行と三木卓」 |
| 3. 学会等名 2022年度阪大比較文学シンポジウム（大阪大学大学院比較文学研究室）（招待講演） |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 佐藤亨 |
| 2. 発表標題 左川ちかの詩 |
| 3. 学会等名 「ワークショップ 左川ちか生誕110周年記念会」（滋賀大学経済学部主催） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---------------------------------------|
| 1. 発表者名 佐藤亨 |
| 2. 発表標題 北アイルランドのUK離脱 アイルランド南北統一の予兆 |
| 3. 学会等名 日本アイルランド協会2019年度公開講座 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 佐藤亨 |
| 2. 発表標題 Rhyming Weavers を編集するジョン・ヒューイット |
| 3. 学会等名 日本アイルランド協会第27回アイルランド研究年次大会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---------------------------------------|
| 1. 発表者名 佐藤亨 |
| 2. 発表標題 サムエル・ファーガソンのジレンマ |
| 3. 学会等名 日本アイルランド協会第26回アイルランド研究年次大会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名 佐藤亨 |
| 2. 発表標題 北アイルランドを目撃する |
| 3. 学会等名 日本アイルランド協会2017年度文学研究会 |
| 4. 発表年 2017年 |

〔図書〕 計4件

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 佐藤亨・平野順雄・松本真治編 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 水声社 | 5. 総ページ数 452 |
| 3. 書名 『四月はいちばん残酷な月 T.S.エリオット『荒地』100周年記念論集』佐藤亨、『荒地』翻訳(9-28)、「1922年秋、ケインズは『荒地』を朗読した」(99-116)、「現代詩の古典としての『荒地』」(449-452)執筆 | |

| | |
|----------------|-----------------|
| 1. 著者名 佐藤亨 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 七月堂 | 5. 総ページ数 167 |
| 3. 書名 アウラ草紙 | |

| | |
|-----------------------|-----------------|
| 1. 著者名 佐藤亨 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 水声社 | 5. 総ページ数 188 |
| 3. 書名 北アイルランドを目撃する | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 木村正俊編 | 4. 発行年 2017年 |
| 2. 出版社 春風社 | 5. 総ページ数 436 |
| 3. 書名 『文学都市ダブリン ゆかりの文学者たち』、佐藤亨、第13章「パトリック・カヴァナ イニスキー ン・ロードからラグラン・ロードへ 田舎者詩人の上京」(271-296)執筆 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|----|
|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|